

Alert 16号

反天皇制運動

[通巻 398 号]

2017 年
10 月 11 日発行

第Ⅹ期・反天皇制運動連絡会

今月の Alert

●「天皇代替わり」反対の共同の取組み開始！

「終わりにしよう天皇制 11・26 大集会」へ！—— * 2

反天ジャーナル ●—— たけもりまき FUF、宮下守、映女 * 3

状況批評 ● 複数いる美智子や徳仁、愛子の DNA 鑑定を？ 右翼を苛立たせる、不協和音？

—— 中嶋啓明 * 4

ネットワーク ● ふるさとに帰るとのこと—— 蔵座江美 * 7

書評 ● 「憲法解釈は朕のものアキヒト」—— 松井隆志 * 8

太田昌国のみたび夢は夜ひらく (89)

● 「一日だけの主権者」と「日常生活」批判—— 太田昌国 * 9

マスコミしかけの天皇制 (16)

● 国政の私物化—— 安倍・小池・天皇—— (壊憲天皇明仁) その 14—— 天野恵一 * 10

野次馬日誌—— * 11 集会の真相—— * 14 学習会報告—— * 15

反天日誌—— * 16 集会情報—— * 16

2017 年 9 月 13 日、傍聴を求めて 1500 人が集まる中、東京朝鮮高級学校の生徒 62 人が日本国を相手に、「高校無償化」からの排除の不当性を訴えて 2014 年 2 月 17 日から闘ってきた裁判に、東京地方裁判所は不当な原告敗訴判決を下しました。

7 月 19 日の広島地裁不当判決に続き、司法が行政権力を「忖度」し、「高校無償化」からの排除に不当な「お墨付き」を与えました。7 月 28 日の大阪地裁における行政訴訟は、「高校無償化」法の趣旨に則り、朝鮮学園の権利を正當に認定しました。それにまっこうから反する不当判決です。

教育の機会均等や民族教育の保障は、憲法をはじめとする国内法規や国際人権法に定められ、政府・地方自治体として実行しなければならない責務であり、2014 年 9 月には国連人種差別撤廃委員会が、日本国政府に対して朝鮮学校への「高校無償化」制度の適用、地方自治体に補助金の再開・維持を要請することを勧告しています。

この不当判決は 62 人の原告にのみ関わるものではありません。「高校無償化」制度が始まった 2010 年から現在まで全国の朝鮮高級学校 10 校に在籍したすべての朝鮮高校生に向けられたものです。この 8 年間、朝鮮高校生はもちろん卒業生や家族たちは、毎週金曜日の文部科学省前の抗議行動、各地での抗議行動等々に多くの時間を割くことを余儀なくされてきました。

一方で、この間、朝鮮と名の付くものには何をしても良いという風潮が作り上げられてきました。天皇制が廃絶されなかったのと同じく植民地支配責任が清算されなかったことが、72 年経った今でも朝鮮蔑視を生み、植民地支配によって日本に暮らすことになった人々、戦後の経済支配の中で新たに日本にやってきた人々を苦しめる構造を作っています。(ぐずら)



250 円

●定期購読をお願いします(送料共年間4000円)

●郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス

東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A 淡路町事務所気付 落合ボックス

TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://hanten-2.blogspot.jp/> mail: hanten@ten-no.net

今月の
Alert

「天皇代替わり」反対の共同の取組み開始!

「終わりにしよう天皇制 11・26 大集会」へ!



この間の話題は、なんといっても国会冒頭解散をはさんでの、希望の党結成から民進党の分裂に至る政局ばなしだっただろう。

それは結果的に良いことだった。改憲と安保法制に反対する旗幟を鮮明にした政治勢力の登場は「安倍か小池か」しか選択肢が示されないかと思われた状況を変えた。枝野も民主党時代に九条改憲案を提示していたかもしれないが、国会前の安保法制反対闘争の高揚を作り出したような人びとの運動が、こういった流動的な状況の規定力になっていくのだ——そういった分析に、私もとりたてて異を唱えるつもりはない。けれども民進党の議員の多くが自ら踏み絵を踏んで、もうひとつの改憲政党へとなだれ込んでしまった。希望の党の選挙公約には「憲法九条を含め改正論議を進める。自衛隊の存在を含め時代に合った憲法の在り方を議論する」とあり、小池百合子も記者会見で「憲法の議論から逃げない。むしろ積極的に参加したい」と述べている。日本会議国会議員懇談会の副会長などを務めたこともある経歴からすれば不思議ではないが、関東大震災での朝鮮人虐殺被害者追悼式典への追悼文送付をとりやめた小池は、踏み絵の一つにわざわざ「外国人参政権付与反対」を盛り込んだ。その点では自民党右派と変わらない政治勢力が、もうひとつ大きく登場したとなれば、それはやはり深刻だ。

選挙結果にも左右されるだろうが、九条から始めるかどうかは別にして、改憲の方向はますます加速していくだろう。そのとき、第

一章はどうなるのか。おそらく改憲項目としての優先順位は高くないはずだ。もちろん、それが重要でないからではない。他ならぬ天皇の意思に基づく「生前退位」を可能にする特例法が、共産党などの「護憲派」も含めた賛成によって成立してしまうような翼賛国会のもとで、天皇の「公務」の拡大が事実上すでに合意されているからにはかならない。そして天皇「代替わり」の諸儀式は、「国民」にそういう現実への同意を迫るものとなるだろう。

このような状況の中で開始された私たちの「天皇代替わり」反対行動は、明仁天皇制を批判的に総括し、運動化していくために少しでも人に届く言葉と論理とを、どのように編み出していくのかということにかかっている。天皇制も、天皇制に関する社会的な意識も、三〇年前とは大きく変わってきている。少なくとも大きく変わったというイメージが「平成流」として広く受け入れられている。先日ある会議の場で、明仁天皇制批判における「情と理」という話になった。昭和天皇の場合、どうしても戦争のイメージが刻まれていたし、その死が生み出した「自粛」という現実を前に、「理」のみならず「情」の部分においても、一定程度、天皇制に批判的な感覚は社会的に共有されていた。しかし明仁天皇は、もともと天皇制の機能として持っていた民衆の「情」を再組織していくことに意を注ぎ、またそうした演出によって、「国民の天皇」としてのあり方は完成形に近づいた。

いまや運動のなかでさえ、明仁天皇の「平和主義」を称揚する声は多い。そうした「情」から距離を置き、あるいは置かれている存在も確実にあるはずだし、こうした「情」を再発見し取り戻す行為は、やはり「理」に支えられるのではない。運動としてそれを表現し言語化していくことは難しいが、そうしたことも、走りながら考えるしかない。

一月二十六日(日)午後、千駄ヶ谷区民会館においておこなわれる「終わりにしよう天皇制 11・26 大集会」も、こうした試みのひとつである。この集会は、この間首都圏各地で、さまざまな反天皇制の取組みを重ねてきたグループによる実行委員会の主催だ。二〇一八年「明治一五〇年式典」、天皇「退位」(?)、二〇一九年「改元」「即位の礼・大嘗祭」と、今後数年は続く総体としての「天皇代替わり」過程に反対していく首都圏レベルの共同した取組みの第一弾として、まずは天皇制に対する私たちのスタンスを公然と宣言するところから始めるべく、こうした集会名称をつけた。当日は、朝鮮現代史研究者の吉澤文寿さんに、植民地責任をめぐる戦後史と象徴天皇制について講演していただき、憲法学者の横田耕一さんのインタビュー(予定)や天皇弾圧(公安のつきまとい)のビデオ上映、実行委メンバーによるコント(―)各地の報告などを受け、その後原宿から渋谷に向けて夜のデモを行なっていく予定である。ともに論議し、行動していこう!

(北野 登)

君はこの国を好きか？

二〇一七年一〇月、私は還暦を迎え、世間では議會制民主主義の崩壊したままの総選挙。

人生一〇〇年の「長寿」社会が一瞬訪れているが、一〇年先も展望できない劣化した社会との乖離を思わざるを得ない。国民国家の形成とともに近代天皇制をするすると引きずったことが、この日本社会の劣化の原因ではあるだろう。

一方で資本制社会というものが、改めて世界中で階級的差別を生み出し、科学だとか技術だとか物が物心どもの貧しさを生み出したことも多くの人が語るところだ。それでも見えないところで多くの人が自死を選び、また過労死し、また孤独死している社会を直視できず、歯止めとなる思想や主義も見当たらない。少なくとも「希望」なんてそんなものはない。国会解散ではなく、国民国家という枠を解散するしかないのか？

ちっぽけな一人の人間のたった六〇年という一巡りでわかることなんて、どれだけのことが一人ごちている。

さて二順目を生きる自分、絶望の淵からどんな社会を夢見ようとするのだろうか？

(たけもりまき・FUF)

臨時国会召集要求書の報道を

安倍首相は臨時国会冒頭解散し総選挙をするらしい。その前提の六月二日に提出された野党による臨時国会召集要求書が報道されない。本当に提出されたかは国会開催や関連情報を記載する衆議院公報と参議院公報を見れば一目瞭然。

国立国会図書館で確認した。日本国憲法五三条に臨時国会の規定あり。内閣は、国会の臨時会の召集を決定することができる。いづれかの議院の総議員の四分の一以上の要求があれば、内閣は、その召集を決定しなければならない。衆院定数は四七五人、参院定数は二四二人で、臨時国会要求書の署名議員は衆院二〇人、参院七一人であり、両議院とも規定を満たしている。

国会法三条に以下の規定がある。臨時会の召集の決定を要求するには、いづれかの議院の総議員の四分の一以上の議員が連名で、議長を経由して内閣に要求書を提出しなければならない。衆議院公報一三二五頁及び参議院公報一〇三九頁の記載から、衆議院議長及び参議院議長が内閣に要求書を提出した事実が分かる。これらから、内閣が日本国憲法の規定を無視した様子が窺える。

森友・加計学園疑惑を国会審議せず冒頭解散予定の与党を批判せずに集団的自衛権批判を報道する。意味不明。こちらもちちゃんと報道せよ。

(宮下守)

米ソ宇宙競争の陰の主役…女性

人類初の宇宙ロケット・スプートニクがソ連により、発射されたのが六〇年前。一九六一年、ユーリ・ガガーリンが宇宙にいきました。アメリカは必死に追っかけてます。

人種差別がひどかった米南部バージニア州のNASA(米航空宇宙局)は、ソ連に対抗して有人宇宙飛行計画を進めています。そこで、計画の一角を担ったのが、全米から集められた女性数学者。なかでも黒人の優秀な女性数学者たちが集められました。彼女たちはまだコンピュータがない時代に計算手、人間コンピュータとして宇宙飛行に関わる数式の計算をしていました。なかでも、天才的な数学者キャサリン、人間コンピュータを統括するドロシー、エンジニアを目指すメアリー、この三人を中心に黒人女性数学者の活躍を描くのが映画「ドリーム」。

映画のハイライトは、宇宙特別研究本部に抜擢された、唯一の黒人女性キャサリンが有色人種用女性トイレのある建物まで五分走って駆けつけるといふシーン。人種隔離政策が厳然と生きていた時代、トイレも人種別でした。そうした理不尽な差別に思わず抗議するキャサリン。

よくできたエンタメです。黒人のしかも女なら安く使える、そんな当局の魂胆をもとめせず明るく差別を崩す女性たち。同名の著作では時代背景も描きます。

(映女)

状況批評

思想・状況・批評

複数いる美智子や徳仁、愛子のDNA鑑定を？ 右翼を苛立たせる「不協和音」？

中嶋啓明（人権と報道・連絡会）

外に対しては仮想敵国を作って憎悪を煽り、内に向かつては、平和で無垢な「国民」像を描いて優越感をくすぐる。

秋篠宮の長女眞子の婚約内定会見が設定されていた九月三日早朝、朝鮮民主主義人民共和国は六度目の核実験を強行した。これで婚約会見は完全に吹き飛ばされるかと思いきや、何のことはない。会見はテレビで生中継され、翌日の新聞各紙もオペンチャラ丸出しで奉祝報道を展開した。「太陽と月ひかれ合い」等々……、キモチワルイと言ったらない。

かつてないほど、東アジア情勢が緊迫化する中、ナシヨナリズムを喚起したい権力、支配層にとつて頼りはやはり、天皇、皇室なのだろう。

眞子の婚約内定は当初、七月に正式発表されるはずだった。それが急遽、九州北部を襲った豪雨被害の影響で延期された。表向き、そういうことになる。

だが、ネット上には別の理由が飛び交っている。相手男性の「家柄」や家族環境、経済事情などが問題だと、宮内庁に抗議が殺到したというのだ。確かに、それらの内容といい、NHKの「スクープ」で始まった報じられ方といい、なぜこの人が、背景に何かあるのでは、と思わせるようなことばかり。

男性の年収が低いといった程度のこととは主流メディアで、父親が自殺しているのだ、母親が霊媒師だか新興宗教だかにはまっているのだといったことは週刊誌等で時折、読めるが、ネットに流れる情報にはかなわない。これら「不協和音」には真偽不明のものが多くても、宮内庁もやはり無視はできないのだろう。

九月の正式発表を受けて、男性の勤務先が大手主流メディアでも報じられるようになった。勤務先の法律事務所所長は、公益財団法人「世界自然保護基金（WWF）ジャパン」の監事で、この団体は秋篠宮が名誉総裁を務めている。結婚相手に選ばれるに至った裏には未だ報じられていない、何らかの深謀があるのでは、と勘ぐりたくなるが、勤務先が主流メディアで「解禁」されたのは、男性に対する疑念に少しでも冷や水を掛けておこうとの思惑もあるのかもしれない。

こうした「不協和音」の影響力を最近、別のルートでも偶然、再確認された。

反天連も参加する実行委員会は五月下旬、退位特例法をめぐって抗議の声明をまとめ、明仁本人に宛てても、請願法の規定を利用して窓口の内閣官房に提出した。

これを受けて私は、宮内庁と内閣官房に対し、今年一月から六月の間に出された天皇宛「請願」に関する文書の開示を請求した。それに対しては宮内庁から、該当する文書は存在しないとの素っ気ない回答が届いたのだが、もう一方の内閣官房から、一部墨塗りされてはいたものの、なかなか興味深い文書が最近になって大量に開示された。

開示されたのは、「請願書」等そのものと、その受領日や処理結果などをまとめた一覧表。A4判の文書で計一五六枚あった。

一覧表によると、この期間の受理件数は計一二三件。このうち、「拘留所における処遇ほか」についての請願など二件は法務省に転送されているが、それを除く一二二件はすべて、宮内庁側には回されず、内閣官房で「保

管」していることになっている。だから、宮内庁には「不存在」だったのだ。下々の者による訴えなど、天皇本人に見せるわけにはいかないということだろう。

複数の請願が一つの整理番号を付されて受理されたものもあり、「請願書」としては計一三五通になる。

一月から三月までの間に請願はなく、四月に一件、五月に二件。法務省に転送された二件と、五月二六日付の受領日で整理された先の抗議文だ。それなのに、六月に入るやとたんに請願書が急増。ほとんどが同月下旬、特に二七日から三〇日までの間に集中している。

「組織的犯罪処罰法改正案への御名御璽の留保」を求めた請願と「臨時国会の召集」を要求したものがあがるが、そのほかはすべてといていいほど、女性宮家創設反対を掲げたものばかり。それらは同時に「眞子さまご結婚反対」を訴え、「旧宮家の皇籍復帰」を要求している。読んでみると、パターン化された内容の文面がほとんどで、男系主義右翼の間で組織的な動きがあったことをうかがわせる。

いわく――、

「世界で二六〇〇年を超えるわが日本の皇統の歴史は、民を〴〵おほみたから〴〵とする世界で唯一のものです。(略)女性宮家創設をはじめとするとご皇室の不穏な動き、皇統の歴史と伝統を断絶せんとする昨今の多数の画策は、日本の滅亡につながっていくと思われます。／皇統の断絶につながる、女性宮家の創設に反対します。／秋篠宮家長女の眞子内親王殿下と小室圭さんの結婚に反対します。」

あるいは「旧皇族には、男系男子が一二〇名いらっしゃいます。その中には、皇太子殿下のいとこに当たられる方で皇太子殿下よりも天皇家の血筋が濃い方が三名おり、それぞれ男子を儲けていらっしゃいますので、この三名の方の皇籍を復帰するだけでも皇位継承は安定します」などだ。

総じて見られるのは、徳仁、雅子に対する批判と秋篠宮への支持。祭祀

を行うことができないからと、徳仁、雅子の「廃太子、廃妃」を求める主張が多い。

さらに目に付くのは、美智子に対する警戒、不信だ。少なからぬ「請願書」が、「立后会議を未だ経ていない正田美智子とその息子徳仁、徳仁の娘愛子のDNA鑑定」「複数いると思われる『正田美智子』、『徳仁』『愛子』の身元調査」を要求している。「日本の皇室が、皇后美智子により、中国、朝鮮に売り渡されようとしていることを黙って見ていることは出来ません」などという主張もある。

これらは直接、天皇を名宛人にしたものなのだ。不敬な話ではないか。雅子の父小和田恒がスイス・バーゼルで軟禁されているとして、その解放に皇室は関わるなといった訴えや、皇后、皇太子妃のティアラやネックレスがインターネットのヤフー・オークションに出品されたとして、この「ヤフオク事件」の調査をしるといった要求など、ネット上にも散乱しているこうした情報が、これらの人びとの心をこんなにも栗立たせているのだ。

表のメディアで報じられるのは、徳仁、雅子に対する不信感まで。明仁はもちろん、美智子に対する警戒感が、これほど露骨に現れることは決してと言っているほどない。

不敬話のついでに、主流メディアがまったく報じようとしないもう一つのネタにも、ここで少し触れておこうと思う。加計学園と皇室の関係をめぐる疑惑だ。

これまた読者はご存知だとは思いますが、秋篠宮は二〇一五年六月、岡山県を訪問し、学校法人加計学園が運営する岡山理科大学を視察した。政府が「日本再興戦略」を閣議決定し、獣医学部新設の検討と、そのための四条件を提示した直前の時期だ。愛媛県今治市での獣医学部新設計画が諮問会議で認定されるのは七ヶ月後。秋篠宮訪問の二ヶ月前には、今治市の職員が官

邸を訪ねており、首相秘書官と会ったのかどうか、国会審議などで議論になった。もし、安倍が訪問していたら、メディアはどうしただろうと思わせるような時期ではあるだろう。

秋篠宮の岡山訪問は、自身が名誉総裁を務める全日本愛瓢会の第四〇回総会と展示会に出席することが目的だった。宮内庁が私に開示した「お成り御日程」によると、秋篠宮は六月一日、加計学園所有の施設を会場に催された展示会を見た後、岡山理科大学を訪問、加計学園理事長らの出迎えを受け、記念式典などに出席。翌二日には、倉敷市の知的障がい者施設や岡山市の地元企業を訪問して帰京している。

全国四五都道府県に支部を持つ全日本愛瓢会は毎年一回、各地の支部が持ち回りで主催してその地で総会を催している。支部からの立候補を受けて三年ぐらい前には開催地を決め、準備を進めるという。岡山の支部長だった大西荘一氏に話を聞いた。大西氏は、今年三月まで岡山理科大学の情報科学科で教授を務めていた。

大西氏によると、岡山では二〇一二年に、第三七回大会が開かれた。このときは、展示会は市の施設を会場に、総会はホテルで開催された。だが、三笠宮の死去が重なり、急遽、秋篠宮の出席が取りやめになった。そのため再度の岡山開催を本部に申し出たのだという。

大会の開催は、秋篠宮のスケジュールに合わせてことが最大の懸案事項で、急な日程変更の場合に備え、教授として大学を利用できる立場は有利に働いた。四〇回大会でも当初、展示会場としてホテルを仮予約したが、秋篠宮側の急なスケジュール変更で、会場は自由が利く大学の施設になった。秋篠宮側が日程を変更した理由は分からないという。

秋篠宮の視察先の選定は、各支部に任されており、大西氏が数ヶ所の案を宮内庁に示した。大西氏は「秋篠宮が魚類の専門家でもあり、いい機会だと、『好適環境水』を研究する大学の生命動物教育センターを視察先の一つに提案した。今治での獣医学部新設が問題になるのは、その翌年から

で、当時はそんなことは考えたこともなかった。まったく無関係だ」と話した。

話を聞く限り、秋篠宮の視察が、直接的に獣医学部新設を後押しするために計画されたとは言えそうにない。ただ、加計孝太郎理事長ら学園中枢や宮内庁、安倍政権側に、何らかの思惑があったのかどうかは、現段階ではまったく分からない。

加計学園は、ある人物を介して美智子ともつながっている。岡山県倉敷市にある大原美術館の創設者一族に連なり、現代表理事大原あかねの父で、つい最近まで長年にわたって美術館の代表理事を務めていた大原謙一郎だ。その妹が、美智子の弟正田修と婚姻関係にある。謙一郎は、加計学園の理事にもなっていたが、今年三月末で退任した。加計学園問題が騒がしくなったためかどうかは分からない。

秋篠宮は、前年の二〇一四年五月にも岡山理科大学を訪問。同大会会場に開かれた「生き物文化誌学会」の例会に出席している（こちらの訪問は、宮内庁のサイトには掲載されていない。理由は不明だ）。一五年の視察も一四年の訪問も、いずれも地元の山陽新聞やテレビでローカル・ニュースとして報道された。

加計学園と皇室の間に因縁浅からぬ関係があり、秋篠宮は以前から、加計学園の「広告塔」の役割を果たしてもいたのだ。

万世一系を信じ、純粹、無垢の化身と信頼していたはずの皇室が外部の「血」に汚され、実利主義に侵されていく。天皇宛の請願に見られるのは、そんな皇室の「変貌」に対して神道主義右翼が抱く恐怖心とも言える忌避感だ。そんな中でも唯一、辛うじて自分たちの妄信を託すことのできる相手が秋篠宮だった。だが、その秋篠宮も実利主義の例外ではない。

神道主義右翼の中にじわじわと浸透しているかにみえる「不協和音」への疑念が、今後の天皇制の再編動向に、どのように影響していくのか、これはこれで興味深い。

ふるさとへ NETWORK

ふるさとへ NETWORK

蔵座江美（一般社団法人ヒューマンライツふくおか）

ハンセン病に対する最初の立法は、一九〇七年の「癩予防二関スル件」である。放浪患者を国辱とし、強制隔離することが主な目的だった。その後、一九三一年に「癩予防法」と名前を変え、当時の国家主義思想の元に「民族浄化」「無癩日本」を名目に患者を根こそぎ強制収容・隔離することが推進された。一九四三年には特効薬プロミンが開発され、治療法が見つかり、一九五六年のらい患者の保護及び社会復帰に関する国際会議における「ローマ宣言」において、全ての差別待遇的な諸法律の撤廃が謳われたにも関わらず、日本は一九九六年のらい予防法廃止まで、実に九〇年近くも人権侵害を続けてきた。

結果、何が起ったか。ハンセン病に罹患したというだけで、家族と離別させられ、療養所とは名ばかりの施設に終生隔離を余儀なくされ、名前まで変えさせられた。そして、当事者だけでなく、残された家族も社会からの差別・偏見に苦しみ、その苦しみは今なお続いている。昨年二月に原告五九名で提訴されたハンセン病家族訴訟の原告が五六八名までに増え、そのうちの三名しか本名を名乗れていないという事実からもその爪あとが窺える。

熊本にある国立療養所菊地恵楓園は全国に一三ヶ所ある療養所の中でも一番規模が大きい。最初に足を踏み入れた一五年前は入所者が五九六人だったが、今では二四四人となっている（二〇一七年五月現在）。

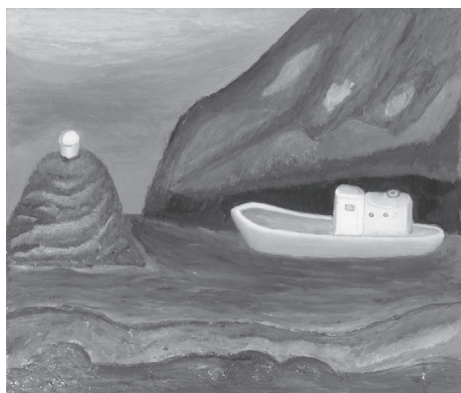
菊地恵楓園には一九五三年にひとりの看護師の呼びかけで始まった絵画クラブ金陽会があり、そこには八五〇点を超える作品が残されている。金陽会代表の

吉山安彦さんが、他のメンバーの作品を自分の作品以上に大切に守ってこられていなければ、廃棄処分されていたであろう作品群である。ほかの療養所でも同じような活動は行われており、同じように作品が残されていてもおかしくないが、遺族が引きとらなければ焼却処分されるので、これだけの作品が残っているのは菊地恵楓園だけである。

前職（熊本市現代美術館主任学芸員）で、縁あって金陽会の作品を知り、展覧会を行ってきた。そのときに自分の子どもを紹介するかのようになり、ちょっと照れくさそうに自分の作品を見せてくださった絵画クラブメンバーのほとんどが他界されてしまった。今ではメンバーも三人となり、絵を描き続けていらつしやるのは八八歳になった吉山さんただひとりとなった。

作品群の中には、遠く離れて暮す母親を思っただけの作品、帰りたいけど帰ることが叶わなかった故郷を思っただけの作品、らい予防法は廃止されても、差別は絶対になくならないと、静かに、しかし強い憤りを込めて描いた作品など、これらの絵から何を受けとり、何をすべきか、考えさせられる作品も多く含まれている。

二〇一八年三月から五月にかけて、奄美大島で「ふるさと、奄美に帰る」と題して、金陽会の作品展を開催することが決まった。奄美出身の大山清長さん（在園年数六〇年）、奥井喜美直さん（在園年数四九年）は、故郷に帰ることなく恵楓園で亡くなった。お二人は特に故郷の風景を描かれており、その絵を観た奄美出身の人が場所を特定されたとき、この絵をなんとしてで



『奄美風景』大山清長 2000年
油彩、キャンバス 45.5 × 53.0cm

も里帰りさせたいと心に誓った。
見守り続けてきた金陽会の絵が海を渡り、奄美という故郷で展示されて初めて伝わる何かがきつとある。ぜひたくさんの人とこの邂逅を見届けたいと思っている。

「ふるさと、奄美に帰る」菊地恵楓園金陽会作品展」
二〇一八年三月二〇日（土）～三一日（土）奄美文化センター
四月三日（火）～一〇日（火）国立療養所奄美和光園
四月二〇日（金）～五月一三日（日）田中一村記念美術館
入場無料

展覧会開催に向けてのご寄附をお願いしております。ご協力いただければ幸いです。

西日本シティ銀行大橋駅前支店（店番735）

（普通）3087904

一般社団法人ヒューマンライツふくおか

代表理事 古長美知子



天野恵一 『憲法解釈は朕のもののアキヒト』

（ピープルス・プラン研究所パンフレット特別号 Vol.2）

松井隆志（戦後研究会）

天野恵一の最新「反天」パンフレットである。二〇一六年七月の明仁の「ご意向」報道と翌月の「お気持ち」発表から「退位特例法」成立後までの天皇制状況に対する、リアルタイムでの批判的考察が集められている。一年超という短期間に著者があちこちで書いた記事を媒体ごとに並べているため、基本的には同じ批判が繰り返される。とはいえ、媒体別に書き分けられていて案外飽きずに読める上、中心的な問題点を何度も確認することになるのは、問題自体を見失いがちな現下の「ヤバイ」状況では効果的とも言える。

掲載媒体ごとの著者自身の配列もなかなか戦略的だ。冒頭に置かれるのは『市民の意見』に掲載されたものだが、同紙スタッフとの問答形式となっている。主張を整理するのに便利だからというより、本心からの疑問を説得するという文字通りの「問答」になっている、今回の事態の批判的考察への導入としてわかりやすい。同時に、これら記事がどういう状況の中で書かれたのかも、端的に浮かび上がらせている。つまり、本文中でもさんざん批判されているマスメディアの全面的翼賛状況のみならず、それと相關する形で広まっている運動圏内部での明仁天皇への共感・同情という問題だ。

この冊子では詳しく論じられていないが、（共産党の「転向」も含め）運動圏の天皇制への容認姿勢は、明仁天皇制を「安倍政治への抵抗勢力」とみなす「護憲天皇制」イメージの、近年の広がりが前提になっている。昨年の「お気持ち」自体、

そうした社会の意識をあてこんで発せられている。この天皇制認識がいかにも誤っているか、そして「お気持ち」を発することがなぜ問題なのか、そうした問題意識自体の共有から丁寧に行う必要があるのが現在の状況だ。しかし考えてみれば、「護憲天皇制」という錯誤は、明仁の天皇就任に際して始まっている。「壊憲」を進めながらもそれと逆のイメージをまとい「退位」しようとするのは、明仁天皇制の完成形態とも言えるだろう。

先に「壊憲」と書いたが、本書の主要な指摘の一つは、「お気持ち」によって政治を動かし「退位」法案を作らせたこと自体の違憲性（憲法破壊）である。しかも単に法を要求したのみならず、メッセージ中で天皇の役割を自ら規定したことも問題だ。そもそものが違憲と言うべき「公的行為」を、「祈り」を含めた形で拡大して正当化した（その上でその業務負担を根拠に「退位」を希望するというマッチポンプ）。にもかかわらず、かつては批判的に指摘されていたこの「公的行為」の問題を、いまやほとんど誰も問題視せず、象徴天皇制の拡大が野放しになっている。学者もマスメディアも既にまともな役割を果たしていないことを、著者は批判している。

昨夏に「お気持ち」が問題になった際、私自身は違憲性には気づいた。しかし、「退位」なのだから言われてみれば当たり前だが、それが「Xデー」の問題であるとは考えが及ばなかった。年明け一月に、「退位」スケジュールや新元号問題が報じられたとき初めて、これが天皇制の側から能動的に

仕掛けられた「Xデー」だと理解した。一方、著者は「お気持ち」報道の最初の段階から、これが「Xデー政治」の開始だと強調している。ただし、その著者にしても、このような形で「昭和Xデー」の「克服」（自粛や混乱の計画的回避）が設定されることは、予想外のことだったようだ。

本書は繰り返し、明仁天皇制による「違憲」あるいは「立憲主義破壊」を批判する。しかし、憲法を文盲だけ守れば良いという立場ではもちろんない。この点について、著者の言葉を引用して、本紹介を終えたい。

「私たちの〈違憲論〉は、象徴天皇制それ自体が人民主権憲法では、結局、原理的には違憲の存在でしかないという立場の産物である。戦後（民主・人権・平和）憲法自身の自己矛盾への思想的・運動的執着こそが、私たちの運動の〈原則〉であるはずだ。」（五九頁）

「戦後」の歴史をこそふまえて、〈象徴天皇陛下万歳〉の大合唱に抗する必要を強く実感する。象徴天皇制と対決する〈デモクラシー・平和・人権〉。それが私たちの原理である。」（六九頁）

【パンフレット注文先】

ピープルス・プラン研究所

〒一〇一〇〇一四 東京都文京区関口一

四四一三 信生堂ビル2F

Fax: 03-6424-5749

ppsg@jcapc.org

みたび

太田昌国の夢は夜ひらく 89

「一日だけの主権者」と「日常生活」批判



テレビのニュース番組を観なくなって久しいことは何度か触れてきた。もともとテレビを買ったのは一九八三年のことだったから、さわめて遅い。この年の一〇月、米帝国がカリブ海の島国、グレナダに海兵隊を侵攻させた。社会主義政権の誕生で彼の地の社会情勢が「不穏」となり、在留米国人の「安否」が気遣われたという口実での、海兵隊の侵攻だった。ひどい話だが、「建国」以来の米国史ではありふれたことではあった。悔しいのは、グレナダという国について何のイメージも浮かばないことだった。長崎県の福江島に等しい程度の広さの国だというが、どんな人が住んでいるのだろう、主な生業は何だろう、一〇万人の人口で成り立つ「国」とはどんなものだろう。そんな小さな国で、米国をして不安に陥れる社会的・政治的情勢とは、どんなものだろう——百

科事典でわかることもあったが、土地とひとに関わる映像的なイメージがどうしても必要だと思った。あれほど拘って「拒否」してきたテレビを買ったのは、その時だった。買ってみてわかったことだが、グレナダのような小さな国の出来事など、何が起ころうと日本のテレビ局は何の関心も示さない。新聞は読んできたのだからわかりそうなものだったが、マスメディアにおける、「世界」から打ち捨てられた地域・国々の扱い方はそういうものなのだ、という当然の、興ざめた結論を改めて得ることとなった。

だが、ニュースのほかにもさまざまなテレビ番組に触れるにつれ、現代人の心のありように及ぼすテレビの影響力の決定的な大きさを心底痛感することとなった。

そのことを実感する個人的な経験も一九九七年にあった。前年末に起こって長引いていた在ペルー日本大使公邸占拠・人質事件をめぐって、某テレビのニュース番組に二度出演した。生放送ではない、録画撮りで、放映時間はそれぞれわずか一分程度のものであった。私としては、日本人質の安否報道に純化している日ごろの番組ではまったく聞かれないう意見を話したつもりだった。翌夕、事務所近くのラーメン屋へ行くと、顔見知りの兄さんが「夕べ、テレビに出ていましたね」と言っ、何か小皿料理をサーブしてくれた。郵便局の局員も、見ましたよと言っ、それがさ大変なことであるような話ぶりだった。話したことの内容ではなく、テレビに出たこと自体が、私に対する彼らの視線を変えたもののようだった。恐ろしい媒体だ、と心から思った。

一九八三年にテレビを買い、その後二〇年間ほどは、時間さえあれば、ニュース番組以外にもいろいろと観た。とりわけ二〇〇二年九月以降の半年くらいの間はテレビに浸った。日朝首脳会談以降の拉致問題報道によって社会がどのようにつくり変えられていくのか。それを見極めなくてはならない。そう

考えたからだ。外にいたり電車に乗っていたりするときも、ワイドショー番組での人びとの発言を携帯ラジオの音声モードで聞いていた。恐るべき速度と深度で、この社会が民族排外主義と自己責任免罪主義によって席捲されていく様子が、手に取るように分かった。ワイドショーこそは諸悪の根源、と確信した。この作業を終えて以降、テレビ・ニュースを観ることをほぼ止めた。世界各国の最新のニュース番組を同時通訳で紹介するNHK・BSの「ワールド・ニュース」だけは観る。六〇年安保のころ、中国文学者・竹内好が「日本の新聞だけを読んでも、何もわからない。英字新聞を読まなければ」と語った記憶が蘇える。今、テレビに関して、竹内に似た思いを抱く。

国会解散・総選挙・相次ぐ新党結成などの動きが打ち続くなかで、「禁」を破ってテレビのニュース番組やワイドショーをいくつか観た。テレビを重要な媒体だと考えている人びとの脳髓に日々染み渡ってゆく言論がどのような水準のものであるかを、司会者・コメンテーターの言動と番組全体の枠組みを検討して、理解した。一五年前との比較においてすら、劣化は著しい。加えて、選挙制度は小選挙区制である。さらに加えて、極右が支配する「自民」「希望」は論外としても、これに対決しているかに見える新党「立憲民主党」の先頭に立つのは、震災・原発事故の際の（為政者）としての印象も生々しい政治家たちである。あつちを向いても地獄、こつちを向いても（小）地獄。選挙の一定の重要性は否定しないが、「一日だけの主権者」への埋没がこの事態を出来させたと考えれば、私たちが真に大切にしなければならぬことは何かが見えてくる。それは、テレビ・ニュースに象徴される、己が「日常生活」への批判なのだ。

（10月7日記）

マスコミの
いかに天皇を
制するかの
16

国政の私物化——安倍・小池・天皇
〈壊憲天皇明仁〉その14

一恵野天



九月二八日、安倍晋三内閣の首相の大スキヤンダル隠しのための衆議院解散が実行された。この〈ハレンチ解散〉の直前に前原誠司民進党代表は、小池百合子都知事が代表をつとめる「希望の党」への合流方針を宣言。「安倍政権を終わらせるため」なら、なんでもありだとほざいた。

その時から、マスコミはこぞって、「次の首相は小池か」と小池劇場の演出にこれつとめる舞台に一変した。小池は「脱原発」をブチ上げ、脱原発を主張し続けている元首相小泉純一郎との会見も、すぐセッティング、そのイメージをふりまき、安倍政治への対決ムードを自己演出した。そして、この数日間の反原発運動の一部の混乱。そこには、「世論」で「多数派」となりつつあるシングル・イシューの運動の持つネック（恐ろしさ）が全面的に露呈していた。

前原の実質的な解党提案は、なんと民進党の両議員総会で反対ゼロで承認、小沢一郎の「自由党」も、その流れに合流という状況下で、〈希望の党〉政権づくりで脱原発」という声とムードが、私の足もとの反原発運動の中にも部分的にであれ浮上したのである。私からすれば、「日本会議を支援する国会議員懇談会」の前副会長で大日本帝国憲法の復元を公言している天皇主義右翼の核武装論者「小池党」か、天皇主義右翼安倍「自民党」かというどっちも最悪の二つの選択のみがクロースアップされる選挙状況。そこに脱原発の希望を見

る人がいることに、正直驚いた。

「連合」のボスと前原、小池のボス交渉によって演出されたこの状況は、「民進」（前原）の金と「連合」（組合員の選挙スタッフ）をいっぺんに小池がいたたくという小池の野望が中心軸だったはず。「連合」はボスの思わく通りにはいかず、原発推進の電力総連のブレーキもあり、全面協力は崩壊、小池が「日本維新の会」とも選挙協力と欲ばりすぎ。さらに「民進」の出身者に「安保法・改憲支持、党への資金提供」を軸とするこまかい踏み絵。その小池への提出をせまるという独裁強権政治ぶり。これが「民進党」分裂、リベラル系結集の合言葉に、枝野幸男を代表とする「立憲民主党」をつくりださせるバネとなり状況は一変。いまマスコミの小池劇場はこのあまりの手前勝手な小池の強欲政治へのバッシングのトーンが強くなってきた。国政の〈私物化〉という点では安倍と小池「緑のタヌキ」は同じ体質である。

九月二二日、私は〈平成〉代替わりの政治を問う連続講座）をスタートさせた（主催：ビープルズ・プラン研究所）。この長く続ける予定である講座の第一回はアキヒトの「ビデオメッセージ」と「皇室典範特例法」へのこまかい批判がテーマ。私は、この間〈天皇の天皇による天皇のための「生前退位」に反対する〉というスローガンを思いつき、あれこれと話してきた。ここでも、天皇の「生前退位」を可能にする天皇のメッセージ（政治意

志）に基づく、法案づくりのプロセス全体が、自分の思った方向で「皇位を安定的に継承」させたいという天皇の私的な野心の産物であること、憲法が許していない〈国政の天皇による私物化〉であることを問題にした。ここでも、その点を確認しておきたい。

「象徴としての公的な御活動に精励してきた」と〈天皇の象徴活動〉の主體的な意義を強調した「特例法」は、憲法の「国民統合の象徴」とは「統合された国民を象徴する」だけであり、天皇の国家統合活動（それは政治活動なのだから）を期待しているなどというものではないとする、多くの憲法学者の解釈はもちろん、今までの政府見解すら反対に変更させてしまふ、「改憲立法」だ。

「……象徴といいますが、これまで政権が公にお答えしておりますところは、これまで政権が公にう天皇のお姿、有形といいますが、具体的な天皇というお姿を通してその奥に日本国をああいう無形の抽象的な存在あるいは国民統合という無形の抽象的な事柄を天皇というお姿を通して国民は思い浮かべるといいますか、そこで日本国としての統一性を天皇を通して感じると、そういう意味であるうというふうにいまままでお答えしております」。一九七九年の参議院での「内閣法制局長官」の発言（今までの政府のスタンス）。

「違憲」である以上に、政府もマスコミも憲法学者も、そういう天皇自身による活動しやすい方向への象徴天皇制再定義「立法」であることを、こぞって隠していることが大問題。天皇の「私物化」だけは視えなくされているのだ。

「あふ」

9月1日、9月30日

【9月1日】

明仁◆「公賓」として訪日している英国のメイ首相を皇居・御所に招き、懇談。宮内庁によると明仁が、メイ首相から佳子の英リーズ大留学について尋ねられ「英国での大学生活が良いものになると期待しています」。メイ首相「私の父親もリーズ大出身。佳子さまが、良い大学生生活を送られると確信しています」。

秋篠宮、紀子◆1923年の関東大震災から94年となり、東京都墨田区の都立横網町公園で営まれた東京都慰霊協会主催の大法要に出席。

華子◆常陸宮の妻華子が、腰椎変形性脊椎症の治療のため、がん研究会有明病院（東京都江東区）に入院。

原発事故追悼施設◆政府が、福島県浪江町の両竹地区に、東日本大震災の犠牲者や東京電力福島第1原発事故で避難中に死亡した人々を追悼する国営施設を設置すると閣議決定。

朝鮮人虐殺◆1923年の関東大震災から94年となり、東京都墨田区の都立横網町公園で、日朝協会東京都連合会などの実行委員会による朝鮮人犠牲者追悼式が開催される。例年寄せられていた小池百合子・都知事の追悼文はなかったと報道。加害資料撤去◆展示物から旧日本軍による加害行為の資料撤去や「侵略」の表現をなくした戦争博物館「大阪国際平和セ

ンター」（ピースおおさか、大阪市）の改装を巡り、展示の変更点を記載した文書を市が事前に非開示とし、知る権利を侵害されたとして、市民団体の男性が市に160万円の損害賠償を求めた訴訟の控訴審判決で、大阪高裁が、5万円の支払いを命じる。

元朝日記者◆元朝日新聞記者で「慰安婦」報道に関わった植村隆が、産経新聞に掲載された「ジャーナリスト」桜井よしこのコラムに誤りがあるとして、産経新聞社に訂正広告の掲載を求める調停を東京簡裁に申し立てる。

【9月2日】

徳仁、雅子◆国民文化祭の開会式出席などのため、JR東京駅を出発し、東海道新幹線と近鉄特急を乗り継ぎ、奈良県入寺大仏殿で、当初初めて一体開催となる国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭の開会式に出席。徳仁が「さまざまな文化・芸術活動に共に参加することを通じて、障害のある方とない方の交流が深まることを期待しています」とあいさつ。

【9月3日】

明仁退位◆明仁の退位を実現する期日を巡り、政府内で12月に決定・公表する案が検討されていることが分かる。決定の前提となる皇室会議での意見聴取を実施する時期として、同月23日の天皇誕生日

前後が浮上していると、政府関係者が明らかに。

徳仁、雅子◆国民文化祭などの開会式出席のため訪問中の奈良県で、同県王寺町の文化福祉センターを訪れ、文化祭の1環で行われたハンドベル演奏や車いすダンスを見学。奈良市の県文化会館で、障害のある人となない人が共に踊る車いすダンスの練習会を見学。近鉄奈良駅を出発し帰京。

秋篠宮、紀子、眞子◆東京・元赤坂の赤坂御用地内にある秋篠宮邸で、眞子と、大学時代の同級生の小室圭の婚約内定を祝う夕食会が開かれる。秋篠宮、紀子と眞子、小室と小室の母の計5人が参加。

眞子婚約◆眞子と、国際基督教大の同級生で、法律事務所勤務の小室圭の婚約が正式に内定。明仁が皇居・御所で、結婚を認める「裁可」をし、宮内庁の山本信一郎長官が、明仁、美智子と秋篠宮、紀子に、それぞれ婚約内定の発表を行うことを報告。昼前に秋篠宮、紀子と眞子が、それぞれ御所に赴き、明仁、美智子にあいさつし、眞子が小室を初めて紹介。眞子が、東京・元赤坂の赤坂御用地にある赤坂東邸で、小室と共に初めて記者会見。小室が皇族と結婚することについて「非常に責任が重い」。秋篠宮、紀子が談話を発表し「（婚約）内定までの5年は私たちがの時よりも長く、2人の意思を確認するのは十分な時間だった」。会見後、宮邸で秋篠宮、紀子と眞子、小室と母の5人で共に夕食。宮邸で秋篠宮、紀子と眞子、小室と母親の5人で共に夕食。安倍晋三

前後が浮上していると、政府関係者が明らかに。

首相が祝意を表すコメントを発表。「誠におめでとうございます。国民の気持ちが見える本場にうれしいニュースです」。首相は当初、記者団の取材に応じて祝意を述べることを検討していたが、北朝鮮の核実験に対応するためコメント発表に切り替えたと報道。菅義偉・官房長官がコメントで「誠におめでたい。国民の皆さんと共に心からお祝いを申し上げます」。衆参両院議長が、「国民」とともに祝福するとの謹話をそれぞれ発表。自

民党の二階俊博・幹事長が「お二人の未来が素晴らしいものになりますよう、心よりお祈り申し上げます」とのコメントを発表。公明党の山口那津男代表が、眞子と小室の記者会見に触れ「お二人のほほ笑ましいやりとりを拝見し、喜びにあふれていることを実感しました」。民進党の前原誠司代表が談話で「誠におめでたいことであり、国民の皆さんと共に祝福します」。共産党の小池晃・書記局長「幸せなお二人を心から祝福する」。自由党の小沢一郎・共同代表が談話で「女性皇族が減ることになる。早急に女性宮家の議論を進め、結論を出すべきだ」。

【9月4日】

明仁、美智子、秋篠宮、紀子、佳子◆佳子が皇居・御所を訪れ、明仁、美智子に英国留学を前にあいさつ。秋篠宮、紀子が合流し、共に昼食。

秋篠宮、紀子◆東京・上野の国立西洋美術館を訪れ「アルチンボルド展」を鑑賞。退位特例法◆安倍晋三首相が、大島理森・衆院議長、伊達忠一・参院議長と東京都

内で会食。川端達夫・衆院副議長と郡司彰・参院副議長、菅義偉・官房長官が同席。関係者によると、先の通常国会で明仁の退位を実現する特例法成立に向け、両議長が国会見解の取りまとめに尽力したとして慰労したと報道。

【9月6日】

明仁、美智子、紀子、悠仁◆11歳の誕生日を迎えた悠仁が、明仁、美智子にあいさつするため、紀子と共に、皇居・御所を訪れる。半蔵門から車で皇居に入る。

【9月11日】

天皇、皇族◆紀子が51歳の誕生日を迎えたとして、東京・元赤坂の赤坂御用地にある秋篠宮邸で誕生日を祝う一家の食事が開かれる。宮内庁関係者によると、明仁、美智子や皇太子一家らが加わる。

侍従◆国土交通省住宅瑕疵担保対策室長の石和田二郎が侍従に就任する宮内庁人事を報道。

皇宮警察本部長◆宮内庁侍従の牛嶋正人が皇宮警察本部長に就任する警察庁人事を報道。

桂離宮◆宮内庁の西村泰彦次長が記者会見で、自民党の行政改革推進本部が7月に政府に求めた、京都御所などの「皇室用財産」の入場料の徴収について、現在無料で参観できる桂離宮（京都市）の有料化を検討すると明らかに。有料化の理由について「桂離宮は（公開されている皇室用財産の中で）来場者数が多く、人々の関心も高い。施設の修復や維持に費用がかかるため財源確保を検討する必要がある」。

「慰安婦」問題◆韓国の聯合ニュースによると、ドイツのシュレーダー前首相が、元「従軍慰安婦」の女性が共同生活するソウル郊外の施設「ナヌムの家」を訪問。自衛隊高級幹部会同◆安倍晋三首相が、自衛隊高級幹部を招いた懇親会を官邸で開き「わが国の安全保障環境が厳しさを増している。皆さんと心を一つに力を合わせていきたい」。小野寺五典・防衛相が北朝鮮の「挑発行動」に即応するため、アルコール抜きの懇親会になったとして「万が一のときは、幹部一同が持ち場に駆け付けて国民の生命、財産を守る覚悟だ」。

【9月12日】

佳子◆英国リーズ大に留学するため、羽田空港から英国へ出発。

デンマーク皇太子◆菅義偉・官房長官が記者会見で、デンマークのフレデリック皇太子が10月9・12日に「公式実務訪問賓客」として訪日すると発表。滞在中、明仁と昼食を共にし、安倍晋三首相と会談する予定で、当年はデンマークとの外交関係樹立150年に当たり、6月には徳仁が同国を訪問していたと報道。

新国立競技場◆2020年東京五輪・パラリンピックのメインスタジアムとなる新国立競技場の工事に東南アジアで違法伐採された木材が使われているとして、環境保護団体グリーンピースなど47団体が連名で国際オリンピック委員会に改善を求める抗議文を提出していたことが分かる。

【9月13日】

明仁◆皇居内の生物学研究所の隣にある

田んぼで、恒例の稲刈りをする。

朝鮮学校◆国が朝鮮学校を高校無償化の適用対象から外したのは違法だとして、東京朝鮮中高級学校高教部の卒業生62人が国に計620万円の損害賠償を求めた訴訟で、東京地裁（田中一彦・裁判長）が、原告の請求を棄却。

眞子◆小室圭との婚約内定後の初の「公務」として、「国際陶磁器フェスティバル美濃」に出席するため、岐阜県に入ったと報道。

【9月14日】

眞子◆小室圭との婚約内定後の初の「公務」として、「国際陶磁器フェスティバル美濃」に出席するため、岐阜県に入ったと報道。

黒田清子◆6月に伊勢神宮（三重県伊勢市）の神宮祭主に就任してから初めて同神宮を参拝し、就任を報告。

【9月15日】

秋篠宮、紀子◆「敬老の日」にちなみ、東京都新宿区の新宿区シルバー人材センターを視察し、高齢者と交流。区立おとめ山公園を訪れ、清掃や除草作業に取り組み高齢者と会う。／宮内庁が、秋篠宮、紀子が21日に福岡県を訪問すると発表。7月の九州北部の豪雨で被災した同県朝倉市を訪れて災害現場を視察し、被災者と懇談すると報道。

眞子◆岐阜県多治見市のセラミックパークMINOで「国際陶磁器フェスティバル美濃」の開会式に出席。名誉総裁としてあいさつ。開会式後に陶磁器展の入賞者らと懇談。前回から、フェスティバルの名誉総裁を務めていると報道。帰京。日の君処分◆東京都立学校の卒業式や入学式で「君が代斉唱」時に起立せず、懲戒処分を受けた教員ら14人が処分の取り

消しを求めた訴訟の判決で、東京地裁が「裁量権を逸脱している」として6人に対する停職と減給を取り消す。

【9月16日】

明仁、美智子◆練馬区立美術館（東京都）を訪れ、洋画家藤島武二の生誕150年を記念した特別展を鑑賞。関係者と懇談。

【9月18日】

東アジア情勢◆航空自衛隊が、空自のF2戦闘機と米空軍のB1戦略爆撃機などが、九州周辺の空域で共同訓練を実施したと明らかに。

【9月19日】

明仁、美智子◆東京都港区の明治記念館を訪れ、日本遺族会創立70周年記念式典に出席。

徳仁、雅子◆東京都千代田区のホテルを訪れ、アジア諸国の法律家らでつくる団体「ローエイシア」が主催する国際会議の開会式に出席。

華子◆故常陸宮の妻華子が、腰椎変形性脊椎症の治療で入院していたがん研究会有明病院（東京都江東区）を退院。

遺族会◆東京都港区の明治記念館で、日本遺族会創立70周年記念式典が開かれる。

菅義偉・官房長官が「戦争の惨禍を二度と繰り返さないために、先の大戦から学び取った多くの教訓を深く心に刻み、世界の平和と繁栄に貢献していく」とする安倍晋三首相のあいさつを代読。

【9月20日】

明仁、美智子◆「私的」な旅行で、埼玉県日高市の高麗神社を訪問。高麗神社は、朝鮮半島の高句麗が7世紀に滅亡した前

後に、同市を中心とする地域に移り住んだ「渡来人」ゆかりの神社で、高句麗の王族が祭られているとして、宮司から高句麗の人々が渡来した歴史などの説明を聴き、参拝。日高市にある全国有数のヒガンバナの群生地「巾着田曼珠沙華公園」を散策。熊谷市に移って宿泊。

眞子◆東京都中央区の日本橋三越本店を訪れ、第64回日本伝統工芸展の授賞式に出席。工芸展を主催する日本工芸会の総裁を務め、総裁賞と高松宮記念賞を選定し、工芸展を鑑賞。

【9月21日】

明仁、美智子◆埼玉県深谷市出身の実業家渋沢栄一の生誕地や記念館など、ゆかりの場所を巡り、帰京。深谷市で、渋沢の喜寿を祝って1916年に建てられた「誠之堂」を見学。渋沢生誕の地を訪れた後、記念館を訪問。／20日に「私的」な旅行で、7世紀に滅んだ朝鮮半島の高句麗からの渡来人が祭られている埼玉県日高市の高麗神社を訪問したことについて、韓国主要紙が、写真付きで大きく報じるなど強い関心を示し、各紙が「歴代天皇の中で初めて」と強調したと報道。朝鮮日報「陛下は普段から歴史問題や古代の韓日間の交流についても関心が高いことで知られている」。東亜日報「退位を控え、韓国に反省と和解のメッセージを送ろうとしているのではないか」「韓国を訪問したいとの意思を示してきたが、結局実現しなかったことが今回の訪問につながったのでは」。

徳仁◆長野県の八ヶ岳連峰の天狗岳

(2646メートル)に登る。20日に山に入って黒百合ヒュッテに宿泊したと報道。帰京。

秋篠宮、紀子◆7月の九州北部の豪雨で被災した福岡県朝倉市を訪れるため、空路で福岡県入り。県と朝倉市から被災状況の説明を受けた後、家屋の倒壊被害が大きく、死者が出た朝倉市の赤谷川流域を視察、被災者と懇談。福岡市で開かれた福岡アジア文化賞の授賞式に出席。空路で帰京。

バラシユート降下訓練◆米軍が、米軍嘉手納基地(沖縄県嘉手納町など)で、日本政府や沖縄県などが中止を求めているバラシユート降下訓練を行う。

対北朝鮮◆安倍晋三首相が、米ニューヨークで国連総会の一般討論演説を行う。

【9月23日】

徳仁、雅子◆東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターを訪れ、非行少年の自立を支援するボランティア活動「BBS運動」の発足70周年記念式典に出席。式典終了後、関係者と懇談。

「秋季皇霊祭・神殿祭」◆安倍晋三首相が、皇居で行われた「秋季皇霊祭・神殿祭の儀」に参列。

原発事故避難者◆2011年の東京電力福島第1原発事故で福島県から隣接する茨城県に避難した人を対象に前年末に実施したアンケートで、2割が「最近自殺したいと思ったことがある」と回答したとの結果を筑波大や茨城県、避難者支援団体「ふうあいねっと」などのチームがまとめる。

【9月25日】

秋篠宮、紀子◆日本と国交樹立120周年を迎えた南米チリとの国際親善を深めるためとして、秋篠宮、紀子が羽田発の民間機でチリに向かう。

【9月26日】

「起立斉唱」◆トランプ米大統領が「国歌斉唱」の際に起立を拒否するスポーツ選手らを非難し、起立を強要する姿勢に反発が広がっていると報道。

【9月27日】

徳仁、雅子◆東京都千代田区のホテルで開かれた「国際青年交流会議」に出席。海外に派遣された日本人青年と日本へ招かれた外国人青年が、多文化共生などをテーマに討論する場に同席。徳仁が懇談会に出席。雅子は懇談会を欠席。

秋篠宮、紀子◆日本と国交樹立120周年を迎えた南米チリとの国際親善のためとして、現地を「公式訪問」し、チリの首都サンティアゴの宿舎で、日系人の代表者と懇談。国立歴史博物館を視察。チリの「建国の父」と呼ばれるベルナルド・オヒギンスの像に献花。大統領府があるモネダ宮殿で歓迎行事に出席。パチエレ大統領を表敬訪問。大統領府でパチエレ大統領を表敬訪問。

大統領を表敬訪問。

辺野古新基地建設◆防衛省が、米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の移設先、名護市辺野古の埋め立て予定海域で、絶滅の恐れのあるサングが見つかったことを明らかに。

【9月28日】

秋篠宮、紀子◆日本と国交樹立120周

年を迎えた南米チリの首都サンティアゴの日本人学校を視察。サンティアゴ大で日本語を習う学生らと交流。大統領府があるモネダ宮殿で、120周年の記念式典に出席。秋篠宮が、地震や津波の被害に繰り返し見舞われてきた日本とチリが「防災分野でお互いの経験を通じた幅広い協力が進展している」と語る。パチエレ大統領がスピーチで「北朝鮮が日本に行っていることに私たちは反対している」と、核実験やミサイル発射を繰り返す北朝鮮を非難。これに先立ち、秋篠宮、紀子が大統領を表敬訪問。式典後、大統領主催の昼食会に出席。日系人の写真展を見学し、国立病院を視察。宿舎で日本とゆかりがあるチリ人と懇談。

退位特例法◆衆院の大島理事議長と川端達夫・副議長が、衆院解散に伴い退任。大島前議長が記者会見で明仁の退位を実現する特例法制定に関し「各党各会派の議論を経て総意を取りまとめた。立法府の責任を果たすという意味で在任中の大きな出来事だった」。

【9月29日】

明仁、美智子◆国体の総合開会式に出席するため、羽田発の特別機で愛媛県入り。松山市にある県美術館を訪れ、書家紫舟の作品展や、明仁の教育係だった故安倍能成に関する資料展示を鑑賞。／国体開会式に出席するため、愛媛県を訪問し、松山市の県美術館で、書家紫舟の作品展や、明仁の教育係だった故安倍能成に関する資料展示を鑑賞。

秋篠宮、紀子◆南米チリの首都サンティ

美智子の「慰問」

朝鮮半島と東アジアの平和のための9・16集会

九月一六日、東京・文京区民センターに約一五〇人の人々が結集し、「日朝ビヨンヤン宣言15周年 朝鮮半島と東アジアの平和のための9・16集会」が開かれた。

集会では、主催者挨拶に続き、頼瀬厚・山口大学名誉教授が「南北朝鮮の和解と統一を阻むもの——アメリカの覇権主義と追従者たち」と題して講演。

①戦後の朝鮮半島の南北分断が日本の朝鮮植民地支配に起因していること、②韓国内の民衆の闘い、③アメリカの朝鮮恫喝政策が「脅威」の根源、④平和実現を阻むものは誰か、⑤繰り返される朝鮮への戦争挑発、⑥朝鮮半島の平和構築の方途——などについて話された。

休憩をはさみノレの会から、八月に参加した「徴用工像とともに仁川（インチョン）平和文化祭」の映像が流され、さらに「リムジンガン（臨津江）」を参加者と

アゴから海沿いの都市バルライソに移動し、チリで津波の観測や予測を担う海軍水路海洋部を視察。山あいにある展望台から世界遺産に登録されている街並みを見学。サンティアゴに戻り、宿舎で国際協力機構のボランティアらと懇談。紀子が首都サンティアゴの宿舎で、絵本を

通じて知り合った現地の作家マリア・ホセ・フェラダさんと再会。秋篠宮が地元農業学校で養鶏舎などを見学。

新国立競技場◆厚生労働省東京労働局が、2020年東京五輪・パラリンピックのメイン会場となる新国立競技場の建設工事に関わる約760社を調査した結果、

ともに合唱した。

続いて、この間の朝鮮高校への「無償化」差別裁判の各地の判決について、長谷川和男さん（高校無償化）からの朝鮮学校排除に反対する連絡会共同代表）が特別報告を行った。長谷川さんは「大阪地裁判決はまっとうな司法判断で勝利したが、広島・東京地裁では政府の差別政策と小理屈を司法が追認する不当判決が出された。これを日本人が許していることが問題であり歴史的責任が問われている。戦後、困難の中で営々と築かれてきた朝鮮学校の素晴らしさを広く伝え、世論を変えていくことが必要だ」と訴えた。

各団体からのアピールでは、大仲尊さん（沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック共同代表）、中原道子さん（YAWW RAC 共同代表）、高田健さん（許すな！憲法改悪・市民連絡会）、宋世一さん（ソン・セイル）在日韓国民民主統一連合副議長）が、それぞれ報告と提起を行った。

集会は最後に、「国交正常化を目指すこととで合意した日朝ビヨンヤン宣言に基づき対朝鮮敵視政策を転換し、米国に対話と平和協定締結を促すことこそ日本の取るべき道であり、日本の平和の道にも直

37社で違法な時間外労働が確認され、是正勧告したと明らかに。

【9月30日】

明仁、美智子◆松山市のニンジニアスタジアムで行われた第72回国民体育大会「2017愛顔つなぐえひめ国体」の総合開会式に出席。これに先立ち、同競技場

結んでいる。その実現を目指して声をあげていこう」との集会アピールを全体で確認し終了した。

（日韓民衆連帯全国ネットワーク／渡辺健樹）

辺野古新基地建設反対——首都圏での闘い

沖縄・辺野古での新基地建設は、四月末に「本格工事に着工」と宣伝された埋め立て工事が、そのうち撤去される仮設工事に過ぎないことが判明した。さらに、稲田前防衛大臣が六月に、辺野古新基地ができて、その他の条件（普天間基地と同等の長さの滑走路の使用の確約など）が満たされなければ、普天間基地は返還されないと、この期に及んで明らかにした。繰り返される政府・防衛省の姑息で破廉恥なやり方。

実際問題として、地元の名護市長や沖縄県知事の承認が必要となる事象がすぐにも立ちふさがり、工事中止が余儀なくされることを承知しているにもかかわらず、政府は「沖縄と真摯に向きあう」どころでなくこの対応である。工事が後戻りできないところまで進んでいると見

で式典前演技を鑑賞。

秋篠宮、紀子◆南米チリ南部の都市プエルトモンを訪問し、障害者のリハビリセンターを視察。地元の州知事主催の昼食会に出席。宿舎があるプエルトバラス郊外で、サケの養殖場を見学。

せかけて、反対派をなんとかあきらめさせ、来年一月の名護市長選、秋の県知事選であわよくば勝利して一気呵成にと目論んでいるに過ぎない。それがダメなら、これまでをさらに上回る超法規的・超強引な手法による強行突破である（政権へのダメージを考えると避けたいところだろう）。

沖縄の選挙で示された住民の意思により法治に基づく正当な行政行為（地方自治）が実施されれば、新基地は建設され得ない。そうはならないとしたらその責任は、日本政府にその横暴を許すヤマトの主権者にあるともいえる。辺野古の非暴力による実力阻止の闘いと対峙しているのは、ある意味でヤマト（私たち）なのである。

そんな中（だからこそ）、ヤマト・首都圏ではさまざまな行動が取り組まれている。

一〇月四日夕方より日比谷公園で、二〇〇〇名が参加して、「翁長知事の工事差し止め訴訟支援！オスブレイ配備撤回！辺野古新基地建設を許さない10・4集会」が行われた。この集会の主催者でもある「止めよう！辺野古埋め立て」国会包囲実行委員会、戦争させない・9条

壊すな！総がかり実行委員会は、様々な団体によって構成されている。この日のような大規模な集まりや国会包囲行動は、沖縄の取り組みに呼応して適宜取り組まれているが、各団体による個別の活動は連日と言っているほど首都圏各地で行われている。

辺野古への基地建設を許さない実行委員会による毎月月曜日（午後六時半から）の防衛省前行動は、一五〇回を超える（二〇〇四年より開始。当初は毎週）が、このところ月一回程度の新宿デモにも取り組み、直近では、九月二四日に行われた（二二〇名参加）。

昨年の警視庁機動隊の高江派遣に対して住民訴訟（原告一八三名、弁護団六一

名）に取り組んでいる、「警視庁機動隊の沖縄への派遣は違法・住民訴訟」は、集会・学習会、都庁前アピール、裁判官へのハガキ・キャンペーン等に取り組んでいる。九月二〇日に第三回の口頭弁論が行われ、傍聴席が埋め尽くされた甲斐もあってか、第五回（一月二四日）、第六回（三月一日）の審議日程も新たに（第四回は十一月二二日）、門前払いのおそれなく、機動隊の行動（不法行為）の実質的な検証まで行けるかどうかは予断を許さない。

今年一月二日に、番組「ニュース女子」で、沖縄の反基地運動に対する中傷・デマと偏見を煽る放送をしたMXTVに対する抗議行動が、「沖縄への偏見をあおる

放送を許さない市民有志」によって毎月第二第四木曜日に東京MXテレビ本社前で取り組まれている。

沖縄関連の映画上映会（例えば、ねりま沖縄映画祭・9/30・10/9）も多数行われている。

沖縄で進行している事態を前にしては、まだまだ不十分と言うほかないが、首都圏でも頑張ろう！

（反安保実行委員会／梶野宏）

「ビデオメッセージ」と「天皇退位等に関する皇室典範特例法」を批判的に解説する

九月二二日、午後七時からビープルズ

プラン研究所会議室で、「『平成』代替りの政治を問う」連続講座Ⅲ」の第一回「『ビデオメッセージ』と『天皇退位等に関する皇室典範特例法』を批判的に解説する」が開催された。参加者は約三〇人。

この連続講座は「平成天皇制代替りの政治」のプロセスを、まず正面から緻密に批判検証する「作業を通して」、「『この三年』以内の『退位・新天皇即位』の政治イベントに有効に対決していきたい」という意図で二ヶ月に一回のペースで一年以上連続して開催される予定である。

第一回目の今回は、松井隆志さんが司会をし、伊藤晃さんと天野恵一さんが問題提起をするという形で行われた。

まず天野さんが、この「ビデオメッセー

【学習会報告】

『平成の天皇制とは何か——制度と個人のはざままで』

（吉田裕・瀬畑源・河西秀哉編、岩波書店、二〇一七年）

天皇代替わりの直前となって、ようやく明仁天皇制の内実を問う議論が、アカデミズムの側からも開始されてきた。これは、裕仁時代の「実録」の研究にも携わった、一橋大学の吉田裕らによる仕事だ。

死ぬまでアジアへの侵略と戦犯の事実とともにあった裕仁とは異なり、明仁は、その「護憲」発言や「平和」発言などにより、メディアなどからもほとんど批判を受けずにきた。しかし、九〇年代以降は、PKO派兵にはじまり、国旗国歌法と日

の丸・君が代の強制、歴史修正主義が跋扈して教育基本法の改悪や教育内容の国家主義化がすすみ、震災や原発事故などの大災害がもたらされ、社会は経済的にも破綻して多数の貧困化が進んだ時代だ。こうした中で天皇および天皇制が果たした役割は、多くの方面から見直されるのが当然だ。

この本では、これまでほとんど取り上げられなかった「内奏」や「進講」「行幸啓」の詳細や、天皇外交、宮中祭祀、メデイ

アと天皇制などのテーマが、それぞれに章立てされて語られている。祭祀の問題については憲法論に踏み込まず、メディアについてはかなりおどろきな分析にとどまっているが、前回の代替わり以降は、私たちのような運動の側が持続的に注目し続けた以外はまったく扱われなかった内容が、比較的若い研究者による年表的事実の分析とともに、ようやく語られはじめたことは評価したい。しかし、西村裕一には、公的行為論で「憲法学者にできるのはせいぜいこの程度」という退嬰的な姿勢を批判せざるを得ない。また、各所にみられる明仁・美智子についての「人柄主義」による評価という扱いは、大

きな誤りとなることを指摘しておく。

なかで、吉田裕は「おことは」や「慰霊・追悼」について検討を加えつつ、明仁の言動が「歴史と政治に大きく規定されている」と指摘し、「平成流」の賛美に疑問を投げかけている。渡辺治も、明仁の時代にはそれまでの憲法論における「象徴」や「公的行為」に関する議論が投げ捨てられていたことと、今回の「退位法」の過程で皇室典範が有する憲法との背反の問題がすべて議論から外されたことを批判している。渡辺の「別稿」に期待する。次回は、ケネス・ルオフ「国民の天皇」を読む。

（蝙蝠）

ジ」と「特例法」は、「象徴天皇自身による（象徴）定義は安倍政権の改憲の（解釈改憲）の先取りである。戦後保守権力がめざしてきた象徴天皇制（再定義）の、ある完成といえる」と批判し、その根拠として「①『高齢者（八〇歳をこえた）が仕事をやめたいというなら、やめさせてあたりまえ』という（人間天皇）理解は、あたりまえなのか？」②第二の『人間宣言』？なぜ。かつての人間宣言で本当天皇は人間になったのか。今度も（人間）にはならない。」③ビデオメッセージ・「特例法」は天皇の天皇による天皇のための『生前退位』。④アキヒト護憲宣言」の四点を挙げた。

次に、伊藤さんは「8・8メッセージにうかがわれる明仁天皇の危機意識について」と題して、「①退位特例法と8・8メッセージの思想」「②明仁天皇の危機意識」「③明仁天皇の危機意識の歴史的由来」「④明仁天皇への移行」「⑤明仁天皇モデルを脅かすこんにちの現実、安倍政権」の五点を話され、「⑥結論。戦後天皇制の危機に当たって、われわれの問題。」をまとめられた。

その後の質疑応答を含めると、講座は三時間に及び、第一回目にふさわしい熱の入ったものとなった。

（同講座実行委／田中）

10月15日

9月15日（金）●共謀罪反対日比谷集会
9月16日（土）●朝鮮半島と東アジアの平和を求める9・16集会（集会の真相

参照）

9月18日（月）●共に生きる未来をさ

ようなら原発さようなら戦争全国集会

9月20日（水）●警視庁機動隊住民訴訟

第3回口頭弁論（集会の真相参照）

9月22日（金）●「平成」代替わりの政

治を問う・連続講座第1回「ビデオメッ

セージと「天皇退位等に関する皇室典

範特例法」を批判的に解説する（集会

の真相参照）

9月24日（日）●辺野古実新居デモ（集

会の真相参照）

10月2日（月）●辺野古実防衛省行動

10月7日（土）●響かせあおう死刑廃止の

声2017

10月9日（月）●おことわりリンク講座・第

4回「オリンピックはスポーツをダメにする」?

する!?

10月15日

10月15日（日）●差別・排外主義を許すな!

10・15 Action

14時集合／柏木公園（JRほか新宿駅）

／主催：差別・排外主義に反対する連

絡会、APFS労働組合、直接行動（D

A）

10月25日（水）●朝鮮学校の子どもたち

に学ぶ権利を！「高校無償化」裁判全

国集会

18時30分集合・20時デモ出発／代々木

公園（JR原宿駅ほか）／主催：同実

行委員会（連絡先03-5293-8232）朝鮮学

園を支援する全国ネットワーク

10月26日（木）●戸籍への個人番号（マイ

ナンバー）導入は何をもたらすのか

18時30分／文京区民センター（地下

鉄春日駅ほか）／遠藤正敬／主催：共

通番号いらないネット（06-50520270）

●「ニュース女子」東京MXテレビは訂正

と謝罪を！抗議行動

18時30分／19時30分／東京MXテレ

ビ本社前（地下鉄半蔵門線3A出

口）／呼びかけ・沖繩への偏見を

あおる放送をゆるさない市民有志

（honesty@amail.com）

10月28日（土）●第27回砂川秋まつり

10時／旧基地拡張予定地の秋まつり

のひろば（JR立川駅北口からバス・

砂川4番下車ほか）／主催：同実行委

員会（03-624-9883 かつう）

10月28日（土）・29日（日）●全国豊かな

海づくり大会（福岡）反対集会

「28日・集会」14時／福岡市民福祉プ

ラザ（ふくふくプラザ）402（地下

鉄唐人町駅）／横田耕一

「29日・当日行動」11時／JR東郷駅

日の里口／主催：天皇制に問題あり！

福岡連絡会（092-651-4816）

10月29日（日）●大軍拡と米軍・自衛隊基

地の強化を許すな！10・29集会

13時15分開場／千駄ヶ谷区民会館（J

R原宿駅ほか）／半田滋／主催：有事

立法・治安弾圧を許すな！北部集会実

行委員会（03-3961-0212）ほか

●変えよう！日本と世界

13時30分開場／円山音楽堂（祇園・

円山公園内）／伊藤公雄・金城実・

川口真由美ほか／主催：反戦・反貧

困・反差別共同行動in京都実行委員会

（090-5166-1261 寺田）ほか

11月17日（金）●26日（日）●万人受けは

あやしい時代を戯画いた絵師、貝

原浩

12時／19時／ギャラリー古藤（西武

池袋線江古田駅）／ギャラリートー

クあり／主催：貝原浩の仕事の会

（090-2904-2518）

11月18日（土）●「平成」代替わりの政

治を問う・連続講座第2回「生前退位」

報道を総括する

18時30分開場／ピープルズ・プラン研

究所（地下鉄江戸川橋駅ほか）／山口

正紀・天野恵一／主催：ピープルズ・

プラン研究所（03-624-5748）

11月23日（木）●ほんとに原発で生活は

潤うのか？（仮）

13時15分開場／千駄ヶ谷区民会館1

F（JR原宿駅ほか）／山崎隆敏・福

士敬子／主催：福島原発事故緊急会議

（090-1705-1297 国富）

11月26日（日）●終わりにしよう天皇制

11・26大集会

13時開場・集会後デモ／千駄ヶ谷区民

会館（JR原宿駅ほか）／古澤文寿／

主催：同実行委員会（090-3438-0263）

Q...神田川

●神田川向きの話題、たくさんありました
が紙面の都合でカット。残念。きょうの作
業参加者は、木菟、桃色鰐、蝙蝠、熊、猯、
ナマケモノも顔を出しました。ではまた来
月のこのコーナーで(?)